

アシラム

ASHRAM

解題

アシラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

2025.12月第685号

発行所 アシラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

イザヤ書7章のインマヌエル預言は、マタイ福音書で語られる主イエスの誕生の中でも、とても大切な箇所である。この預言は、南王国ユダが北のイスラエルとアラムの王レツインの同盟軍に脅かされる緊迫した状況の中で語られた。

「王の心も民の心も、森の木々が風に揺れ動くように動搖した」(7:2)――ここは、恐れと不安に押し潰されそうな人々の心の動きを、詩的な表現で描いている。

そのような中、ユダの王アハズに呼びかけ、イザヤは告げた。「落ち着いて静かにしていなさい。恐れることはない」と。そして、北イスラエルとアラムの滅亡を予告した。

しかし王はそれを信じず、反論する。その時イザヤはこう告げるのだ。

「ダビデの家よ聞け。あなたたちは人間に／もどかしい思いをさせるだけでは

足りず／わたしの神にも、もどかしい思いをさせるのか」(イザヤ7:13)。

「インマヌエル預言」、それは人にだけでなく、神にすものに対する、神の約束の言葉なのだ。

この幼子は、歴史的には後のヨシヤ王を指すと考える。この子は、歴史的には空に打つ声のようにしか感

見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。(イザヤ書7章14節)

主幹牧師 榎本 恵

今年もまた、クリスマスの時が巡ってきた。世界中が救い主の誕生を喜ぶこのとき、私たちは立ち止まり、深く心に思い起こそう。

「神、われらと共におられる」という約束を。神は私たちのもどかしい思いの中に入り、共に歩み、救いをもたらしてくださいさるのだ。

友よ、外の世界の揺れの私たちもまた、アハズ王のように、神に対してもどかしい思いをさせているかもしない。しかし神はそのさに翻弄され、自らの無力さに苛まれ、救いを忘れがちである。しかし神はそのさに心を奪われるのではなく、今一度、心落ち着けいく。今一度、心落ち着けよう。揺れ動く日々の中でも、神は確かに私たちの内におられるのだ。

アシュラムセンター創立50周年記念企画

アシュラムセンター職員(?)紹介(2) (1976年4月号)アシュラム誌より

檜山富美子…
檜山委員長夫人

陰の委員長。若々
しく美しい声は乙女
のごとく、時々電話
でその声を聞いた青
年からプロボーズさ
れるとか。祈りをもつ
てセンターのために
近くしてくださって
います。御夫妻で八
幡教会の重鎮。

榎本保郎…
センター主幹牧師

榎本保郎…
センター主幹牧師
1ヶ月のうち半分
は旅を枕の生活。周
りの人たちからもつ
と身体大事にする
ようにと口をすっぱ
くして云われながら
も、自然に忙しくな
る生活に追いまわさ
れています。そんな
わけで、私信をいた
だいても殆どお返事
を出せません。但し、
憶えて祈つてます。

日光オリーブの里アシュラム

「証しの時」にて

佐々木 敬

私がアシュラムに出
席できるようになつた

綾子読書会を開くこと
ができるよう導かれ
ました。

されたその人生で、も
う一度読書会を開き、
これを生きがい、目標
とせよということなの
だと分かりました。

(日本ホーリネス教団
狭山シャローム教会)

ますので、皆様方もお
祈り下さるようにお願
いします。

のは、保郎先生の一日
一章、そして「ちいろ
ば」という本との出会い
でした。パソコンで「ち
いろば」を探した結果、
アシュラムセンターのHPにたどり着
いて、早天祈祷会や聖
書教室にZoOmで参加
加、またこうしてア
シュラムに行くことができ
るようになります。

相談しましたら「祈り
ましよう!」というこ
とで、早天で私のため
に1ヶ月間祈つてください
ました。

その結果、アシュラ
ムの方を対象にちいろ
ば物語の読書会を開く
という道が開かれました。
そして、10月から
月1回ちいろば先生物
語の読書会を、素晴らしい
信仰の方々と共に
開催することができ
感謝でございます。

その人生で、も
う一度読書会を開き、
これを生きがい、目標
とせよということなの
だと分かりました。

ちいろば先生とその
入居施設の中で始め
たのですが、宗教活動
はできず、参加者も80
代、90代の高齢者で、
いつどうなるか分から
ないというような状態
だったので、恵先生に
だつたので、恵先生に
とを、この図書を通じ
て体得できれば良いな
と思います。

—中略—

か分かりませんけれど
も、ただ神様の導きを
信じて、この読書会が
神様から祝福されたも
のになること、そして
そのためにはこの者が忠
実に、皆様方のお世話を
ができると願っています。
私に残された時間
最後の時を、小さなネ
ジの一つのような存在
かも知れませんが、導
きを信じ、そして助け
て下さることを信じて
やつていきたいたいと思
い

思つていた中で、三浦
かりだったので、この
者に「目覚めよ」と「立
ち上がり」と、神様は
何を求めているのかと
言つたのは、お前の残

その中で、早天祈祷
会中に「目覚めよ、目
覚めよ、立ち上がり」
という御言葉をいただき
きました。最初私はそ
の時は93歳になつたば
かりだったので、この
者に「目覚めよ」と「立
ち上がり」と、神様は
何を求めているのかと
言つたのは、お前の残

その結果、アシュラ
ムの方を対象にちいろ
ば物語の読書会を開く
という道が開かれました。
そして、10月から
月1回ちいろば先生物
語の読書会を、素晴らしい
信仰の方々と共に
開催することができ
感謝でございます。

神様が立ち上がりと
言つたのは、お前の残



水戸教会一日アシユラムの 集いに感謝



佐川 富美子 10月25日、茨城県内バプテスト教会の信徒 20名が参加して一日アシユラムの集いが行わ
れました。この5年間 榎本恵牧師をお迎えして教会でのアシユラムが開かれ、今年も参加できることを主に感謝いたします。

佐川 富美子 10月25日、茨城県内バプテスト教会の信徒 20名が参加して一日アシユラムの集いが行わ
れました。この5年間 榎本恵牧師をお迎えして教会でのアシユラムが開かれ、今年も参加できることを主に感謝いたしました。

榎本恵牧師は、教会でアシユラムを行なうことに意味があると語られました。「み言葉に聞くことと祈りをすること」このような信仰生活は、教会生活が確かにされてこそである、と受け止めました。私自身は、神に仕え、教会に仕え、人に仕えるよい信徒にはまだ足りない者ですが、自分の教会の会堂で聴くこのメッセージに励まされました。水戸教会で共に仕えること

は、日々続けている私の祈りです。午前は静聴、心を静めて歴代誌上26章を読みました。午後は恵みの分かち合いと祈りの時。「彼らは年少者も年長者も家系ごとにくじを引いて、それぞれの門を決めた。」(歴代誌上26・13) イエス様ならこの門衛のくじ引きをどう語られるだろうと思ひ巡らし「クリスチヤンには、偶然ということはないのよ。」敬愛する牧師夫の教えがいつも心にあることを話しました。くじ引きは、ただ主の意思に従う個人(頭)、家系に対する選びであり、主と共にあらゆる者が頂く祝福であると思えました。

どうぞと祈らなければなりません。

(水戸バプテスト教会員)

教員

「第49回山陰アシユラム」に

参加して

稻田 敏朗

がれた正統的な集会で

「第49回山陰アシユラム」は、去る10月13日(月)に、日基安来

ス。恵みの集会はスケジュール通りに進行し、「充满の時」のご

教会(遠藤誠一牧師)を会場として1日集会が行なわれました。

ジユール通りに進行し、「充满の時」のご奉仕は、日基久世教会の宮本裕子牧師が担当してくださいなり、先生ご

今回の主題聖句は「御子は栄光の輝きである」(ヘブル1・3)

自身の献身に至る真実なお証を披露してくださいました。

が選ばれ、22名の参加がありました。「開会礼拝及びオリエンテー

そうした中で、今回は特筆すべき事柄があつたのです。今から575年前の1450年頃、ドイツのヨハネス・グーテンベルグは

「山陰アシユラム」

「グーテンベルグ42行聖書」と呼ばれる歴史的

するところは、特別な恵みだと感じます。目の前で聴くこのメ

的な聖書を印刷いたしました。そのオリジナル聖書の一冊(完本は

が三代に亘って引き継ぎました。水戸教会で共に仕えること

世界中で22冊あるだ



け)は、慶應大学に保存されているそうです。が、その後、完璧な復刻版が895部印刷され、その貴重な復刻版I、II巻を所有者の中村修伍兄(出雲ナザレン教員)が会場に展示くださいましたのです。当日の参加者一同は、



佐賀昭子姉、学生時代の黙想の家にご宿泊。早天祈祷会の恵みと共に。昭子姉元、今治幼稚園勤務。大保園園長。恵師てることで、お世話になつた!

49回山陰アシュラムは喜びに満ち溢れた集会となり、心からイスキリスト様の御名を崇めたのです。

(江尾キリスト教会 前牧師)

冬は去り、雨の季節は終わった。(雅歌2:11)

愛修會(アシュラム)の靈的養成の小さな旅路。

二、アシュラムの生活・行動・精神

私たちはアシュラムセンターに滞在し、まるで詩のような古き美しい建物の中で過ごしました。滞在した部屋にはそれぞれ名前があり、「アンナ(Anna)」と「シメオン(Simeon)」という名が付けられていました。初日には心温まる歓迎会があり、その後は自分たちで食事を作ります。買い物や料理を共にすることで、日常の中に自然と交わり(フェローシップ)が生まれていきました。

この旅程は、早天祈祷会から始まります。アシュラムは、私たちが少なくとも一日参加することを心から願っており、私は両日とも参加できたことを本当に幸いに思います。もちろん、すべてのプログラムは日本語で進行され、私はほんの一部しか聞き取れませんでした。

早天祈祷会は、まず一章の聖書朗読から始まり、参加者が一節ずつ順番に読みます。その後、インターネットを通して榎本恵牧師の説教を聴きます(牧師はこの二日間、沖縄で奉仕されており、オンラインでアシュラムの説教と導きをしてくださいました)。続いて、参加者が順番に祈りを捧げ、最後にはアシュラムを訪れたことのある方や、その日に誕生日を迎えた兄弟姉妹のために、絵葉書を書いて祈りを捧げます。日本語の内容は十分に理解できなかったものの、祈りの感情と聖霊による内なる交わりは、心をもって受け取ることができました。

初日のオリエンテーションは非常に重要でした。光太さんは、アシュラムの核心的な精神を二つ紹介してくださいました。第一に「語るのではなく、聞くこと」。第二に「交わり」。そしてこの二つの精神を実践するために、第三の要素として「空白の時間」が設けられており、それぞれが自分自身で消化し、深めるための時間として用いることができます。(つづく)

冬天已經過、雨已經終

愛修會靈性培育 & 小旅程

王美書(台灣基督長老教會 台中復興教會牧師)

二、愛修會の生活、行動、精神

阮仔愛修會靈修中心而起。阮仔若詩古謡中，謡所在攞家己的名字。安娜(Anna)恰西面(Simeon)。一開始有真豐沛的歡迎會，然後愛家己煮食。通過做伙買物件，煮食，柠檬生活中就形成團契。

這個行程的開始是早天祈禱會。愛修會衷心盼望阮至少參加一日。我真有福氣能有參加。當然，規個過程是用日本話來進行。我干焦聽有一主珠仔。祈禱開始代先讀一章經文。每個人輪流讀一節。然後通過網路聽榎本恵牧師講道(榎本恵牧師在兩天的靈修會人沖繩服事。總是借用網路來講道與引導靈修活動)。接著，每個人輪流祈禱；最後結束禮會為曾經造訪愛修會、生日為當日的兄弟姊妹寫明信片與代禱。日本話的內容雖同聽無啥有。祈禱感情恰巧聖神內面的相通，卻會當用心領受。

第一日的簡介：非常要緊。榎本光太主任說明愛修會核心的精神有三個：第一、「母是講，是聽」；第二、交通。為著欲互這兩個精神落實。第三、有一幕空白的所在，咱會當有某己消化或是深化體會的時候。

王美書(台灣基督長老教會 台中復興教會牧師)

シメオンの風 7 「泰山タイル」 市橋 恵子

康子さん、光太さん、裕子さん、るつ子さん、樋口さん夫妻、ゆう君、彼らはアンナ祈りの家とシメオン黙想の家のためのチームです。アベンジャーズのようだ。

アンナとシメオン、この二つの建物への様々な配慮と維持は、このチームなしでは成立しません。建物全体の管理や保全。庭の草木の手入れ。そして訪問された方々に素敵な時間を過ごしていただくためのおもてなしにいたる様々なことに、それぞれの賜物を生かして奉仕されています。

最近、シメオンのためにまたひとつ重要な仕事が増えました。シメオン默想の家のタイル磨きです。ある日、タイルの研究をされている方がシメオンを訪問され、調査された結果、玄関や朝食室の暖炉周りに使われているタイルは泰山タイルと呼ばれる貴重なものなのだとわかったそうです。泰山タイルとは、京都にあった泰山製陶所によって大正から昭和にかけて約半世紀の間に作られた建築用装飾タイルだそうです。すべて手作業で作られたもので、このタイルが使用された建物で現存しているものは数少ないらしい。(詳しくは泰山タイル)



小さな部屋の小さな暖炉

12月に泰山タイの調査が再び実施されるとのこと。ヴォーリーズ建築の車なる側面がまたシメオン・モルトの家の新しい

12月に余田ノ下川の調査が行な実施されることのこと。フィーナス建築の又なる面面がまたシナモン祭の祭典には物語を私たちに教えてくれるようワクワクします。調査のために、タイル磨きに忙しい日々がはじまります。神様から与えられた奉仕に励まれるチームの皆さんに主の祝福を祈ります。

いえじま 雜記 30 「民泊始めました！」



最近、伊江島で民泊をはじめました。伊江島の民泊は基本的に修学旅行生を対象としていて、シーズンになると毎日のように全国から高校生や中学生が泊まりにきます。僕たち家族は毎日というわけにはいかないのですが、ここ一ヶ月くらい週に一度はお客様が一緒にいました。

一回の民泊で四人から六人の若者が家にきて、長いときには二泊三日をともにします。にんじんが嫌いな子。朝の三時に起きてメイクをはじめる子。アニメが好きな子。港区の私立校に通いながら高校生の勉強を中学生で終わらせる子。モモンガを飼っている子。長いつけ爪をついている子。挙げていけばキリがないですが、話を聞けば聞くほど、一緒に時間を過ごせば過ごすほど、みな個性豊かで千差万別、帰っていったあとはどの子もそれぞれに手のかかる、でもかわいい子がいて憎めない子たちだったなあと思います。

きゃーっと叫び声がすれば、たいていがゴキブリかヤモリか、それともアリが出た合図。僕にしてもそういう虫は得意というわけではないのですが、平気なふりをして退治します。そうやって無理やり鍛えられる毎日です。伊江島に来られる際は、民泊体験できますので、お声がけください。 檻本空（ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住）



10月の修道場アシュラム。懐かしい方、初めての方々、ゆっくりみことばと共に。



11月の阪神ミニアシュラム(神戸聖愛教会)新しい方も
自称、猪瀬和子姉の弟子の方々も熱心に。

50周年を迎えたアシュラムセンターは、いよいよ次の向こう岸へと向かって船を漕ぎ始めます。50年前に「向こう岸に渡ろう」という主のみ声に聴き従った先代たちが、到達したこの向こう岸から、私たちは新たに漕ぎ出します。次の50年後を目指し、私は、このアシュラムセンターの主幹牧師として、ヨハネ14:27「わたしは平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。」
世が与えるのではない主の平和、今世界が混沌としていく中で、しかしこれを信じ、向こう岸へと渡るのである。どうか、これからも共に祈ってください。きつと100年の年を未来のアシュラムの友が祝ってくれる事を信じて。

あとがき

(惠)



中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり！

【主な問い合わせ先】0748-33-4030 アシュラムセンター
【Zoom・インターネット等 問い合わせ先】080-3983-8140

12月の聖書教室など

3(水)	第15回 平和合同祈祷会（アシュラムセンター PM2:00）
8(月)	福岡聖書教室（福岡中部教会 PM1:30）
21(日)	ちいしば牧師記念チャペル夕礼拝（PM5:00）
22(月)	静岡聖書教室（旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30）
23(火)	東京聖書教室（御茶ノ水クリスチヤンセンター4F AM10:30）
23(火)	しみじみする会（桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30）
1/9(金)	阪神ミニアシュラム（神戸聖愛教会 PM1:00）
1/10(土)	加古川祈りの家（フリーメソジスト加古川教会 PM1:00）

12月のアシュラムなど

1(月) 3(水)	アドベント-師座・リトリート アシュラム (シメオン黙想の家、アンナ祈りの家) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
5(金) 6(土)	アドベント-師座・リトリート アシュラム (シメオン黙想の家、アンナ祈りの家) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
7(日)	クリスマス礼拝（ちいしば牧師記念チャペル）愛餐会・コンサート（アンナ祈りの家） 奉仕者 榎本 恵師／カフェちいしば大山シェフ／♪チャイムコンソート	

2026年1月のアシュラム予定

12(月) 第51回 年頭アシュラム 0748-33-4030
14(水) 奉仕者 榎本 恵師／金田 佐久子師 アシュラムセンター

2月以降のアシュラム予定

2026年2月	ブラジルアシュラム
2026年3月2(月)~4(火)	第43回 台湾愛修會



←この度の50周年記念講演、講師は最相葉月氏。きっかけは写真右の宇田慧吾師（かつてアシスタントとして、シミュラムセンター修道場住人）。

献金のお願い

創立50周年のため祈りお献げ下さった皆様、感謝致します。引き続きお祈りとご献金をお願い申し上げます。

キャッシュレス献金はこちらのQRコード
または「オンライン献金.com」と検索ください。

アシュラムセンター運営
記号番号 01050-6-53772



みことば



大きな柿！
モッちゃんより

日本キリスト教団 豊島岡教会
南花島集会所 牧師 江口公一

10章 「また、あなたがたの従順が完全なものになるとき、すべての不従順を罰する用意ができています。」
(Ⅱコリント10:6)

パウロが導かれた教会の和解は、困難を極めたと思います。10章でパウロは、この和解が神の戦いであると語ります。その初めに「このわたしパウロが、キリストの優しさと心の広さとをもって、あなたがたに願います」と記します。何を願うかというと、6節の「あなたがたの従順が完全なものになる」事だと思います。「あなたがたの信仰が成長」(15) して。即ち、「キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、…復活したこと」(1コリント15：3～4) を我が事として知り、パウロがそうせざるを得なかったようにコリントの信徒がこのキリストに日々回心し、従順にキリストを生きる事です。

それは信仰の戦いです。「戦いの武器は肉のものではなく、神に由来する力であって要塞も破壊するに足ります。」(4a) これに続く「理屈を打ち破り」「高慢を打ち倒し」「思惑をとりこにしてキリストに従わせ」は、人をキリストの如き神への従順へと造り上げる事です。その主語は、新共同訳では「わたしたち」となっています。しかし、福音を伝えるのは人であり、造り上げるのは神です。ですから、4節aの意味上の主語「神」が主語であり続けると聞くのが相応しいと考えます。自分の考えと戒規を語る1コ林ント書から主の思いを語る2コ林ント書への変化はパウロの信仰の成熟を表していると思えるのです。

6節後半の、その時「すべての不従順を罰する用意ができています。」の主語も「神」と考えます。私達の従順が完全なものとなる迄、神は裁きを待っておられます。その時、神は全ての不従順を罰します。その裁きの中で私は自分の不従順を知り、新たな悔い改め(回心)を得るでしょう。キリストが私と共に十字架につけられ「父よ、彼らを赦したまえ」と祈つておられます。私は感謝し、更に隣人を思い、合わせて祈ります。氣づくと隣人も私の赦しの為にキリストと共に祈ってくれています。

私は、9年間仕えた2つめの教会を辞任し12月からは無任所教師です。この6節は、私には、万人へと広がる、教会の和解の言葉に思います。

〈早天祈祷会・誕生者への祈り〉 神様は、どんな時も約束を育てておられる方であります。その約束を信頼必ず、まかれた種が芽を出し花を咲かせ、実をならせる事を信じ、一日一日を歩むことができますように。

(詩105) 惠